

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
成人気管支喘息の疫学調査 静岡県藤枝市における喘息有症率の経年的変動に関する検討	静岡	1999年	15歳以上	1.5% (有病率)	配票	—	その他の調査票と ATS-DLD	4187人	91.5%	
体育学部新生生の喘息有症率に関する検討	東京	1999～2002年	大学新生	(有病率) 1999年4.5% 2000年6.7% 2001年4.6% 2002年5.9%	集団	—	その他の調査票			
静岡県藤枝市における成人気管支喘息の有症率調査	静岡	1985年	15歳以上	3.1% (有病率)	配票	—	その他の調査票	12562人	96.7%	
沖縄地方の気管支喘息 農漁村6地区における発生頻度調査	沖縄	1983年	20歳以上	2.2%	集団	—	その他の調査票			

2. 小兒氣管支喘息 報告書文献

小児気管支喘息 文献

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
西日本小学児童におけるアレルギー疾患有症率調査 1992、2002、2012年の比較	福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿児島 大分 宮崎 山口 沖縄 兵庫 香川	2012年 2002年 1992年	6~12歳 (小学生)	2012年4.7% 2002年6.5% 1992年4.6%	集合	-	ATS-DLD	2012年33902人 2002年36228人 1992年46716人		
就学前の小児を対象にした喘鳴の疫学的調査	京都 大阪 兵庫 奈良 福井 滋賀	2012年	5~6歳	13.0%	配票	-	その他		(各施設20人)	(420人)
Time trend in the prevalence of adult asthma in Japan: findings from population-based surveys in Fujieda City in 1985, 1999, and 2006	静岡	2006年 1999年 1985年	2006年: 20~79歳 1999年: 15歳以上 1985年: 15歳以上	2006年3.4% 1999年4.4%(ATS-DLD) 1.5%(その他) 1985年2.1%	2006年: 郵送 1999年: 面接 1985年: 面接	-	2006年: その他 1999年: ATS-DLDとその他 1985年: その他	2006年: 3935人 1999年: 4187人 1985年: 12562人	2006年: 68.9% 1999年: 91.5% 1985年: 96.7%	
Changing Prevalence and Severity of Childhood Allergic Diseases in Kyoto, Japan, from 1996 to 2006	京都	2006年 1996年	6~12歳 (小学生) 12~15歳 (中学生)	2006年: 5.0% 1996年: 5.1%	集合	-	ISAAC	2006年: 14,669人 1996年: 17,906人	2006年: 90.1% 1996年: 90.3%	
小児気管支喘息発作による小中学生の学校保健室来室状況	東京 神奈川	2006~2011年	6~12歳 (小学生) 12~15歳 (中学生)	小学1年生 男10.8% 女6.3% 中学1年生 男8.3% 女5.8%	集合	-	その他			(6755人)
小中学生の気管支喘息有症率	東京 神奈川	2006~2010年	6~7歳 12~13歳	小学1年生 男11.0% 女7.1% 中学1年生 男8.3% 女5.7%	集合	-	その他	小学校720人 中学校3245人		
局地的大気汚染の健康影響に関する疫学調査(そらプロジェクト)	千葉 東京 神奈川 愛知 大阪 兵庫	2005年	6~12歳 (小学生)	4.8%	集合	-	ATS-DLD	16273人	(12515人)	77%
特別支援学校におけるアレルギー疾患に関する調査研究	全国	2005年	6~12歳 (小学生) 12~15歳 (中学生)	5.7%	集合	-	その他	49917人	44.2%	44.2%

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
Age-related Prevalence of Allergic Diseases in Tokyo Schoolchildren	東京	2005年	6~12歳 (小学生) 12~14歳 (中学生)	10.3~18.2%	集合	-	ISAAC	小学生: 29,698人 中学生: 9,592人	小学生: (23,496人) 中学生: (5,738人)	27,917人
気管支喘息の有病率・罹患率及びQOLに関する全年齢階級別全国調査に関する研究:全国小・中学生気管支喘息有症率調査	全国	2005年	6~7歳 13~14歳	6~7歳 13.9% 13~14歳 8.8%	集合	-	ISAAC	6~8歳64,424人 13~15歳70,008人	6~7歳(47,050人) 13~14歳(44,135人)	
和歌山県日高郡中学1年生の2003年におけるアレルギーに関する疫学調査	和歌山	2003年	12~13歳	1.4%	集合	-	ISAAC		(759人)	92.1%
Surveys on the Prevalence of Pediatric Bronchial Asthma in Japan: A Comparison between the 1982, 1992, and 2002 Surveys Conducted in the Same Region Using the Same Methodology	福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿児島 大分 宮崎 山口 沖縄 兵庫 香川	2002年 1992年 1982年	6~12歳(小 学生)	2002年:6.5% 1992年:4.6% 1982年:3.2%	集合	-	ATS-DLD	2002年:37,036人	2002年:96.1% 1992年:(45,674人) 1982年:(55,388人)	
西日本小学児童におけるアレルギー疾患有症率調査 1992年と2002年の比較	福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿児島 大分 宮崎 山口 沖縄 兵庫 香川	2002年 1992年	6~12歳 (小学生)	2002年6.5% 1992年4.6%	集合	-	ATS-DLD	2002年 37,938人	2002年95.5%	2002年 (36,228人) 1992年 (46,718人)
埼玉県における15歳以下のアレルギー性疾患と生活環境に関する調査	埼玉	2002年	0~15歳	20.1%	配票	-	ATS-DLD	3,000世帯		78.9%
北海道におけるアトピー性疾患に関する疫学調査	北海道	2002年	3歳	5.9%	郵送	-	その他	7,735人	86.2%	
香川県西讃地区小学生児童の気管支喘息有症率調査 1995年,1998年,2001年の比較検討	香川	2001年 1998年 1995年	6~12歳 (小学生)	2001年:8.9% 1998年:7.5% 1995年:7.8%	集合	-	その他	2001年:8,064人 1998年:8,737人 1995年:9,514人	2001年:96.5% 1998年:94.5% 1995年:95.9%	
3歳児健診よりみた乳幼児アレルギー疾患の疫学	京都	2001年	3歳	3.6%	配票	-	その他	2,594人	(1,054人)	39.1%
山形県内におけるアレルギー症状有訴者の実態調査	山形	2000年	6~12歳 (小学生) 12~15歳 (中学生)	15.40%	集合	-	その他		(579人)	
岐阜県下一小中学校における気管支喘息有症率調査	岐阜	2000年	6~12歳 (小学生)	7.4%	集合	-	ATS-DLD	336人		96.1%

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
和歌山県下中学1年生のIgE抗体陽性率	和歌山	1997年	12～13歳	20.1%	集合	-	その他	918人		
川口・鳩ヶ谷市内小学生のアレルギー性疾患の有病率と大気汚染の関係についての検討	埼玉	1996年	6～12才歳 (小学生)	5.8%	集合	-	その他	29,274人	87.5%	
京都市小・中学生におけるアレルギー疾患疫学調査	京都	1996年	6～12歳 (小学生) 12～15歳 (中学生)	4.5%	集合	-	その他	17906人	90.3%	95.7%
【気管支喘息とアレルギー性鼻炎との関係】 ISAAC studyによる気管支喘息とアレルギー性鼻炎の疫学的な調査	福岡	1995年	6～7歳 (小学校1年生) 13～14歳 (中学校2年生)	6～7歳 (1995年17.3% 2002年17.9%) 13～14歳 (1995年13.4% 2002年13.0%)	集合	-	ISAAC	6～7歳:3,137人、 13～14歳:3,004人	6～7歳:91.4% 13～14歳:94.2%	
ISAAC(International Study of Asthma and Allergies in Childhood) 第I相試験における小児アレルギー疾患の有症率	福岡	1995年	6～7歳 (小学1年生) 13～14歳 (中学2年生)	6～7歳 17.3% 13～14歳 13.4%	集合	-	ISAAC	6～7歳:3,137人 13～14歳:3,004人	6～7歳:91.4% 13～14歳:94.2%	
Prevalence of asthma, rhinitis and eczema among 13-14-year-old schoolchildren in Tochigi, Japan	栃木	1995年	13～14歳 (中学生)	8.4%	集合	-	ISAAC	4,466人		99.4%
アレルギー疾患の疫学調査 アトピー性皮膚炎は減少している・姫路市の小学新入生調査から	兵庫	1995～2010年	6～7歳	1995年4.8% 1999年5.2% 2005年3.8% 2007年4.6% 2010年4.4%	集合	-	ATS-DLD	毎年約5000名	99%以上	
3歳児の喘息様症状の有症率とそれに関連する諸因子の評価	東京	1993年	3歳	7.6%	郵送	-	ATS-DLD	790人		87.7%
3歳児の喘息様症状の危険因子の評価に関する研究	東京	1993年	3歳	7.6%	郵送	-	ATS-DLD	790人	87.7%	
西日本小学児童の気管支喘息罹患率調査 同一地区,同一手法における1982年1992年の比較	福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿児島 大分 宮崎 山口 兵庫 香川	1992年 1982年	6～12歳 (小学生)	1992年4.6% 1982年3.2%	集合	-	ATS-DLD	1992年47321人 1982年57761人	1992年96.8% 1982年95.9%	(45674人)

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
西日本小学児童のアレルギー疾患罹患率調査	福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿児島 大分 宮崎 山口 沖縄 兵庫 香川	1992年	6~12歳 (小学生)	4.6%	集合	-	ATS-DLD	48548人	96.5%	(46718人)
加古川市小学1年児童の気管支喘息罹患率調査	兵庫	1992年	6~7歳	3.9% (罹患率)	集合	-	ATS-DLD	3002人	99.4%	
Reliability of a questionnaire used to survey allergic disease in school	静岡	1992年	6~12歳 (小学生) 12~15歳 (中学生) 15~18歳 (高校生)	0.7%	集合	-	その他		(2669人)	(2291人)
学童のぜん息様症状の有症率と環境諸因子との関連の評価	神奈川	1991年 1988年 1986年	6~12歳 (小学生)	1991年 男9.6% 女5.7% 1988年 男9.1% 女4.8% 1986年 男9.2% 女5.7%	集合	-	ATS-DLD	1991年 4161人 1988年 4440人 1986年 4705人	1991年 94.1% 1988年 94.3% 1986年 96.9%	ほぼ80%
気管支喘息の疫学 小児気管支喘息の有症率	1971年 福岡 1971、1981年 福岡 佐賀 1981年 長崎 熊本 鹿児島 大分 宮崎 山口 兵庫 香川	1991年 1971年 1981年	6~12歳 (小学生)	(罹患率) 1991年4.6% 1981年3.2% 1971年1.7%	集合	-	ATS-DLD	1991年48548人 1981年57761人 1971年94029人	1991年96.5% 1981年95.9% 1971年92%	
Comparison of respiratory symptoms between schoolchildren in China and Japan	神奈川	1991年	6~12歳 (小学生)	男 9.6%	集合	-	ATS-DLD	4,161人	94.1%	
Prevalence of and risk factors for allergic diseases: comparison of two cities in Japan	沖縄 岐阜	1991年	3~6才 (幼稚園) 6~12才 (小学生) 12~15才 (中学生)	岐阜2.5% 沖縄4.4%	集合	-	ATS-DLD	岐阜1835人 沖縄2194人	岐阜67.7% 沖縄89.0%	
長崎県五島地区のアレルギー疾患の実態	長崎	1990年	6~12歳 (小学生) 12~15歳 (中学生)	小学生8.0%、 中学生6.3%	集合	-	ATS-DLD	4550人	83.4%	

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
Comparison of allergic diseases and specific IgE antibodies in different parts of Japan	沖縄 岐阜	1990年	沖縄 6ヶ月～12歳 岐阜 3ヶ月～12歳	沖縄：9.2% 岐阜：6.3%	集合	—	ATS-DLD	沖縄：1792人 岐阜：1436人	沖縄：79.5% 岐阜：92.8%	
気管支喘息と環境要因に関する研究 八王子市市立小学校喘息児童の調査報告	東京	1985年	6～11歳 (小学生1-5 年生)	2.7%	集合	-	ATS-DLD	その他	98%	
島根県都市部における学齢期小児の気管支喘息罹患率の年代的推移	島根	1984年 1977年	6～12歳 (小学生) 12～15歳 (中学生)	1984年7.0% 1977年3.0%	集合	-	その他	1984年517人 1977年1200人	1984年96.3% 1977年100%	
Age-Period-Cohort Analysis of Asthma Prevalence among School Children	全国	1984～2004年	6～17歳	2000年 男1.6～3.6% 女1.1～2.2% 2001年 男1.2～3.4% 女0.9～2.1% 2002年 男1.4～3.5% 女1.1～2.3% 2003年 男1.3～3.9% 女1.2～2.4% 2004年 男1.3～4.1% 女1.2～2.6%他	集団	-	その他	2000年1103017人 2001年1097338人 2002年1083608人 2003年1085728人 2004年1071704人他		
Trends in Asthma Morbidity and Mortality in Japan between 1984 and 1996	全国	1984～1996年	0～9歳 10～24歳	1996年 0-9歳 男3.5% 女0.4% 10-24歳 男0.8% 女0.6% 他	その他	-	その他			
福知山市における小学生児童の喘息実態調査	京都	1982年	6～12歳 (小学生)	14.8%	集合	-	その他	6420人	98.1%	
西日本小学児童の気管支喘息罹患率調査	福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿児島 大分 宮崎 山口 兵庫 香川	1982年	6～12歳 (小学生)	3.2%	集合	-	ATS-DLD	57761人	95.9%	(55388人)

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
小児気管支喘息の臨床疫学(第1報) 大島におけるアレルギー疾患実態調査	東京	1981年	2~15歳	6.8%	面接	-	その他	保育園 小学校 中学校の1977人 2-3歳302人	保育園 小学校 中学校85.7% 2-3歳41.4%	
秋田県小児気管支喘息の実態(第1報) 小・中学校の喘息実態調査	秋田	1981年	6~12歳 (小学生) 12~15歳 (中学生)	小学校1.2% 中学校0.6%	集合	-	その他	小学生105137人 中学生51029人	小学校98.4% 中学校100%	
福岡市内の経年的疫学調査	福岡	1981~2006年 (1997、 2000、2002年 を除く)	6~12歳 (小学生)	2001年:4.7% 2003年:6.7% 2004年:4.1% 2005年:5.6% 2006年:4.3%他	集合	-	ATS-DLD			
同一地域、同一調査法による15年間の アレルギー疾患の変化	福岡	1981~1995年	6~7歳	1991:5.4% 1992:5.7% 1993:5.0% 1994:5.4% 1995:8.4% 他	集合	-	ATS-DLD	平均533人	95%以上	
鹿島町における小中学校児童生徒の気 管支喘息調査成績 過去10年間のま とめ	茨城	1972~1982年	6~12歳 (小学生) 12~15歳 (中学生)	1978年2.1% 1979年2.2% 1980年1.9% 1981年2.0% 1982年1.8%他	集合	-	その他	1978年3657人 1979年3833人 1980年4162人 1981年4340人 1982年4556人		
Clinical aspects of bronchial asthma in children in Tokyo. Incidence, seasonal influences and results of skin tests	東京	1963年	6~12歳 (小学生)	0.7%	集合	-	その他	113112人		
Risk Factors and Prevalence of Asthma or Atopic Dermatitis in Young Children by a Questionnaire Survey	群馬		0~3歳	男 2.6% 女 : 1.3%		-	ATS-DLD	24,631人	70.7%	

3. 食物アレルギー 報告書文献

食物アレルギー 文献

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
インフルエンザワクチン予診票を用いた小児のアレルギー自覚率調査	長野	2011年	0歳～20歳	7.2%	その他	-	自己申告 (既往)			(1546人)
西日本小学児童におけるアレルギー疾患有症率調査 1992、2002、2012年の比較	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 山口 兵庫 香川	2012年	6-12歳 (小学生)	3.6%	集合	-	自己申告 (医師診断)	35237人	(33926人)	96.2%
保育施設における食物アレルギー児に対する食物除去対応の10年間の変化 富山県における平成13年度と18年度調査との比較	富山	2012年	0-6歳 (保育園) 3-6歳 (幼稚園)	3.6%	郵送	-	教員の申告	401施設		70.3%
Food-dependent exercise-induced anaphylaxis among junior high school students; A 14-year epidemiological comparison	神奈川	2012年	12～15歳 (中学生)	0.02%	郵送	-	教員の申告	148人	95.2%	95.2%
秋田県内小中学生における食物アレルギーの実態 2009年と2011年アンケート調査の比較	秋田	2011年 2009年	6-12歳 (小学生) 12-15歳 (中学生)	2011年 小学生:2.8% 中学生:3.0% 2009年 小学生:1.5% 中学生:1.0%	郵送	-	教員の申告			2011年 (78779人) 2009年 (70458人)
妊婦の葉酸サプリメント摂取状況と児の食物アレルギーへの影響	大分	2011年	1歳6か月	7.9%	郵送	-	自己申告 (医師診断)			94.1%
子育て環境と食物アレルギーの関連を考える 新潟市内保育所、幼稚園の実態調査からの提言	新潟	2011年	0-6歳 (保育園) 3-6歳 (幼稚園)	3.7%	郵送	-	自己申告 (既往)			55.6%
Prevalence and impact of past history of food allergy in atopic dermatitis	大阪	2011年	18-41歳	7%	郵送	-	自己申告 (医師の診断)	3414人	98.6%	97.3%
特別支援学校におけるアレルギー疾患に関する調査研究	全国	2009年	3-6歳 (幼稚部) 6-12歳 (小学部) 12-15歳 (中学部) 15-18歳 (高等部)	幼稚部:5.7% 小学部:5.1% 中学部:4.3% 高等部:4.0%	郵送	-	教員の申告			44.2%
重症心身障がい者におけるアレルギー学的評価	三重	2009年	2-71歳	3.0%	面接	-	医師の診断 (OFC)			(67人)

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
Prevalence of wheat allergy in Japanese adults	島根	2009年	24-93歳	0.2% (有病率)	集合	-	医師の診断 (アレルギー検査)	935人	100%	100%
青森県の保育所における食物アレルギーの実態	青森	2008年	0-6歳 (保育園)	3.2%	郵送	-	自己申告 (既往)	497施設		34%
保育園・幼稚園・小学校・中学校における食物アレルギー児の給食対応の比較検討 栃木県におけるアンケート調査	栃木	2007年	0-6歳 (保育園) 3-6歳 (幼稚園) 6-12歳 (小学生) 12-15歳 (中学生)	保育園2.4% 幼稚園2.4% 小学校2.8% 中学校1.5%	郵送	-	教員の申告			保育園: 67.2% 幼稚園: 48.6% 小学校: 87.8% 中学校: 82.8%
Correlation of oral allergy syndrome due to plant-derived foods with pollen sensitization in Japan	横浜	2006年	1-83歳	2.9% (有病率)	集合	-	医師の診断 (アレルギー検査)	622人	100%	100%
Allergic status of schoolchildren with food allergy to eggs, milk or wheat in infancy	京都	2006年	7~15歳	4.2% (乳児期)	集合	-	自己申告 (既往)	14669人	90.1%	90.1%
横浜近郊における、ハンノキ花粉感作と植物性食物による口腔アレルギー症候群の関連について	神奈川	2005年	平均33.4歳	OAS: 4.5%	面接	-	医師診断 (アレルギー検査)	337人		
Management of neonatal cow's milk allergy in high-risk neonates	全国	2004年	0歳	0.2%	郵送	-	医師の診断 (アレルギー検査)	263人	55.1%	55.1%
兵庫県東播磨地域小学・中学・高校における花粉症に伴う口腔アレルギー症候群および食物依存性運動誘発性アナフィラキシー疫学調査	兵庫	2003年	6-12歳 (小学生) 12-15歳 (中学生) 15-18歳 (高校生)	OAS: 0.11% FDEIA: 0.07%	配票	-	教員の申告			97.5%
北海道におけるアトピー性疾患に関する疫学調査	北海道	2002年	3歳	6.6%	郵送	-	自己申告 (既往)	7735人		86.2%
横浜市内幼稚園・保育園における食物アレルギーの実態	神奈川	2002年 2005年	3~6歳 (幼稚園) 0~5歳 (保育園)	幼稚園: 2.4% 保育園: 3.9%	郵送	-	教員の申告	幼稚園: 298園 保育園: 582園		幼稚園: 58% 保育園: 51%
埼玉県におけるアレルギー性疾患の有症率と関連因子	埼玉	2002年	全年齢	4.4%	電話	-	自己申告 (医師診断)	3000世帯		78.9%

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
学校給食における食物アレルギーの実態	全国	2002年	6-12歳 (小学生) 12-15歳 (中学生)	1.3%	郵送	-	その他		100%	(8035306人)
横浜市内幼稚園児における食物アレルギーの実態調査-幼稚園教諭と保護者へのアンケート調査-	神奈川県	2002年	3歳～6歳	2.4%	郵送	-	自己申告 (既往)	教諭：298園 保護者：1610人		教諭：58% 保護者：71%
アレルギー疾患に関する東京都3歳児実態調査	東京	1999年	3歳	9.4%	面接	-	自己申告 (既往)	7988人		55.3%
Frequency of food-dependent, exercise-induced anaphylaxis in Japanese junior-high-school students	神奈川県	1998年	12～15歳 (中学生)	0.02%	郵送	-	教員の申告	145人	90.1%	90.1%
小学生における食物アレルギーの推移	東京	1998～2007年	6歳 (小学1年生)	3.4%	集合	-	自己申告 (既往)			(1392人)
認可保育園におけるアレルギー疾患の実態調査 食物アレルギーを中心として	福岡	1997～2002年	0～6歳 (保育園)	5.3%		-	自己申告 (医師診断)	保護者：15339人		99.2%
川口・鳩ヶ谷市内小学生のアレルギー性疾患の有病率と大気汚染の関係についての検討	埼玉	1996年	6-12歳 (小学生)	7.8%	集合	-	自己申告 (既往)	29274人		87.5%
Frequency of immediate-type food allergy in children in Japan	全国	1996年	0～6歳 (保育園児)	12.6%	郵送	-	自己申告 (既往)		(1548人)	(1336人)
食物アレルギーの発症機序からみた現在と将来の治療 即時型食物アレルギー疫学調査	全国	1996～2002年	1996年： 0～6歳 (保育園) 1997年： 3歳～大人 1998年、1999年： 平均6.7歳 2000～2002年： 平均6.7歳	1996年：12.6% 1997年：6.2～9.3% 1998年、1999年： 記載無し 2000年～2002年： 記載無し	1996年：記載無し 1997年：記載無し 1998年、1999年：記載無し 2000年～2002年：郵送	-	1996年：記載無し 1997年：記載無し 1998年、1999年： 医師診断 (アレルギー検査) 2000年～2002年： 医師診断 (アレルギー検査)			(1996年：1348人) (1997年：19734人) (1998年、1999年：1420人) (2000～2002年：1420人)

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
新発田市における小児のアレルギー性疾患保有状況	新潟	1992年	4-5歳 (幼稚園) 6-12歳 (小学生) 12-15歳 (中学生)	幼稚園児：0.8% 小学生：1.1% 中学生：1.1%		-	自己申告 (医師診断)	全体：9684人		95%
An epidemiological survey on food-dependent exercise-induced anaphylaxis in kindergartners, schoolchildren and junior high school students	静岡	1992年	3~15歳 (幼稚園~中学生) 3~6歳 (幼稚園) 6~12歳 (小学生) 12~15歳 (中学生)	幼稚園児 0% 小学生0.06% 中学生0.21%	郵送	-	教員の申告	528人	100%	100%
食物アレルギーの加齢に伴う耐性獲得に関する検討	愛知		16歳 (高校1年生) 18歳 (高校3年生)	2.2%	集合	-	自己申告 (既往)			(597人)

4. アトピー性皮膚炎 報告書文献

アトピー性皮膚炎 文献

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
西日本小学児童におけるアレルギー疾患有症率調査 1992、2002、2012年の比較	福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿児島 大分 宮崎 山口 沖縄 兵庫 香川	2012年	6~12歳 (小学生)	11.7%	集合	—	過去の医師による診察	35327人	96.2%	96.0%
Comparison of prevalence of atopic dermatitis in Japanese elementary schoolchildren between 2001/2002 and 2007/2008	北海道 東京 大阪 福岡	2007年 2001年	6~12歳 (小学生)	2007年:12.1% 2001年:12.7%	調査票	—	UKワーキンググループに基づく日本語質問表	2007年:7367人 2001年:12292人		
Prevalence of atopic dermatitis in Japanese adults and community validation of the U.K. diagnostic criteria	北海道 大阪	2007年	20歳以上	20代:10.5% 30代:7.8% 40代:3.9% 50~60代:2.5%	集団、 面接	—	医師による診察	2137人		
Community validation of the U.K. diagnostic criteria for atopic dermatitis in Japanese elementary schoolchildren	2004~2005年: 東京 大阪 福岡 2001~2002年: 北海道 岩手 東京 岐阜 大阪 広島 高知 福岡	2004年 2001年	6~7歳 (小学生) 11~12歳 (小学生)	2004年:5.4% 2001年:7.3%	面接	—	医師による診察とUKワーキンググループに基づく日本語質問票			
北海道におけるアトピー性疾患に関する疫学調査	北海道	2004年	3歳	11.8%	調査票	—	医師による診察	7735人	86.2%	(6667人)
Prevalence of atopic dermatitis determined by clinical examination in Japanese adults	東京	2004年	20~69歳	20代:9.8% 30代:8.7% 40代:4.4% 50代:2.6% 60代:6.9%	面接	—	医師による診察			(2123人)

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
長崎県下におけるアトピー性皮膚炎の疫学調査	長崎	2004年	0～6才 (保育園児) 3～6歳 (幼稚園) 6～12歳 (小学生) 12～15歳 (中学生) 15～18歳 (高校生)	(有病率) 0歳：15.4% 1歳：17.9% 2歳：18.0% 3歳：13.7% 4歳：16.5%他	面接	—	医師による 診察		(6489人)	(6489人)
乳幼児アトピー性皮膚炎の疫学(頻度と要因)	札幌 盛岡 千葉 岐阜 大阪 広島 高知 福岡	2002年	4ヶ月 1歳6ヶ月 3歳	4ヶ月12.8% 1歳6ヶ月 9.8% 3歳13.2%	面接	—	医師による 診察	16003人	100%	100%
【広島県地域保健対策協議会調査研究報告(平成14年度)】 広島県におけるアトピー性皮膚炎患者に関する実態調査(第3報) 年齢別有病率調査	広島	2002年	4ヶ月 7歳 12歳 18歳	4ヶ月11.6% 7歳10.9% 12歳13.3% 18歳9.2%	面接	—	医師による 診察	5173人	100%	100%
Prevalence of atopic dermatitis in Japanese elementary schoolchildren	北海道 岩手 東京 岐阜 大阪 広島 高知 福岡	2001年	6～7歳 (小学1年生) 11～12歳 (小学6年生)	11.2%	集合	—	医師による 診察	29482人		80.4%
3歳児健診よりみた乳幼児アレルギー疾患の疫学	京都	2001年	3歳	8.5%	配票	—	その他	2594人	(1054人)	(1014人)
小学校健診による全国規模のアトピー性皮膚炎有病率調査結果	北海道 岩手 東京 岐阜 大阪 広島 高知 福岡	2001年	7歳 12歳	7.4～15%	面接	—	医師による 診察	23719人	100%	100%
【広島県地域保健対策協議会調査研究報告】 皮膚疾患専門委員会 広島県におけるアトピー性皮膚炎患者に関する実態調査(第2報) 年齢別有病率調査	広島	2001年	1歳6ヶ月 3歳 7歳 12歳	1歳6ヶ月9.0% 3歳10.6% 7歳10.9% 12歳10.9%	面接、 集合	—	医師による 診察	2946人	96～97.7%	100%
Incidence of atopic dermatitis in nursery school children-a follow-up study from 2001 to 2004, Kyushu University Ishigaki Atopic Dermatitis Study (KIDS)	沖縄	2001～2004年	5歳以下	2001年:6.2% 2002年:6.3% 2003年:11.0% 2004年:3.7%	集合	—	医師による 診察	2001年631人 2002年836人 2003年844人 2004年764人		

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
広島県におけるアトピー性皮膚炎患者に関する実態調査(第1報) 患者数の全県調査のための予備調査及び健診とアンケート調査の検討	広島	2000年	7~12歳	15.50%	面接、 集合	—	医師による 診察、UK ワーキング グループに 基づく日本 語質問票	511人	98%	100%
乳児を除く小児アトピー性皮膚炎の疫学(頻度と要因)	北海道 岩手 東京 岐阜 大阪 広島 高知 福岡	2000~2002年	7歳 12歳	7~15%	集団	—	医師による 診察	2800名		
小児アトピー性皮膚炎の長期予後	北海道 岩手 東京 千葉 岐阜 大阪 広島 高知 福岡	2000~2002年	生後4か月 1歳半 3歳 6~7歳 11~12歳 大学1年生	生後4か月: 2.8% 1歳半: 9.8% 3歳: 13.2% 小学1年生: 11.8% 小学6年生: 10.6% 大学1年生: 8.2%	面接	—	医師による 診察			
Month of birth, atopic disease, and atopic sensitization	和歌山	1997年	12~13歳	28.3%	調査票	—	その他	755人		
Prevalence of atopic dermatitis in Japanese adults	東京	1997~1998年	30歳以上	30代: 3.5% 40代: 3.1% 50代: 2.6% 60以上: 2.6%	集合	—	UKワーキン ググループ に基づく日 本語質問表	12193人	88.8%	88.2%
ISAAC(International Study of Asthma and Allergies in Childhood) 第I相試験における小児アレルギー疾患の有症率	福岡	1995年	6~7歳 13~14歳	6~7歳21.3% 13~14歳13.5%	集合	—	その他	5732人	91.4~94.2%	100%
中学生のアトピー性皮膚炎の調査	山形	1995年	12~15歳 (中学生)	9.2%	面接	—	医師による 診察			
アレルギー疾患の疫学調査 アトピー性皮膚炎は減少している・姫路市の小学新入生調査から	兵庫	1995~2010年	7歳	9.4%	集合	—	その他	5000人	99%	100%
学童期及び青年期アトピー性皮膚炎の有病率	滋賀	1994~1996年	5~18歳	5~6歳24% 7~9歳19% 10~12歳15% 13~15歳14% 16~18歳11%	面接	—	医師による 診察	7215人	100%	100%

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
Prevalence of childhood and adolescent atopic dermatitis in a Japanese population: comparison with the disease frequency examined 20 years ago	滋賀	1994～1996年	5～18歳	5-6歳：24% 7-9歳：19% 10-12歳：15% 13-15歳：14% 16-18歳：11%	集団、 面接	—	医師による 診察	7215人		
学校定期健康診断におけるアトピー性皮膚炎の調査	青森	1993年	3～15歳	10.5%	集団、 面接	—	医師による 診察	1470人	100%	100%
Month of birth and prevalence of atopic dermatitis in schoolchildren: Dry skin in early infancy as a possible etiologic factor	京都	1993年	7～15歳	1月生まれ：7% 2月生まれ：6.5% 3月生まれ：5.9% 4月生まれ：5.5% 5月生まれ：5.2% 他	配票	—	その他	56108人	89.30%	67.30%
A幼稚園におけるアトピー性皮膚炎の検診	名古屋	1992年	3～6歳	22%	面接	—	医師による 診察	250人	(250人)	(250人)
小学1年生の学童が有するアトピー性皮膚炎を含めた皮膚病変の5年後の予後調査：広島県安佐地区での検討	広島	1992～1997年 1997～2002年	1992～1997年：6～7歳 1997～2002年：11～12歳	1992～1997年：13.6% 1997～2002年：9.2%	面接	—	医師による 診察			
アンケート調査にみられた静岡県下の学童・生徒のアトピー性皮膚炎(第1報)アトピー性皮膚炎の有病率	静岡	1990年	6～12歳 (小学生) 12～15歳 (中学生) 15～18歳 (高校生)	17.2%	面接	—	医師による 診察			
Trends in the prevalence of atopic dermatitis in school children: longitudinal study in Osaka Prefecture, Japan, from, 1985 to 1997	大阪	1985、1987、 1989、1991、 1993、1995、 1997年	7～12歳	1985年：15.0% 1987年：19.1% 1989年：20.9% 1991年：22.0% 1993年：24.1% 1995年：22.9% 1997年：24.1%	配票	—	その他	1985年：764106人 1987年：677367人 1989年：642170人 1991年：568119人 1993年：541726人 1995年：520476人 1997年：489725人	1985年：741823人 1987年：657542人 1989年：598893人 1991年：539683人 1993年：514656人 1995年：496158人 1997年：458284人	1985年：97.1% 1987年：97.1% 1989年：96.7% 1991年：95.0% 1993年：95.0% 1995年：95.3% 1997年：93.6%
アトピー性皮膚炎における最新疫学事情	愛知	1981～1999年	3～15歳	6.6%	面接	—	医師による 診察	2500人	100%	100%

5. アレルギー性鼻炎 報告書文献

アレルギー性鼻炎班 文献集

論文名	調査地域	調査時期	対象 (年齢)	有症率/有病率	調査 方法	自治体 報告	診断方法	依頼数	回収率 (数)	有効回答率 (数)
西日本小学児童におけるアレルギー疾患有 症率調査 1992、2002、2012年の比較	福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿児島 大分 宮崎 山口 兵庫 香川 沖縄	2012年 2002年 1992年	6~12歳 (小学生)	2012年28.1% 2002年20.5% 1992年15.9%	集合	—	その他の調査 票	2012年33902人 2002年36228人 1992年46716人		
Factors associated with the development and remission of allergic diseases in an epidemiological survey of high school students in Japan	福井	2012年	15歳~18歳 (高校生)	19.2%	集合	—	その他の調査 票	21802人	89.3%	
Time-dependent variation in the responses to the web-based ISAAC questionnaire	全国	2011年	6~12歳(小学 生)	花粉症: 春27.2% 夏33.2% 秋32.9% 冬29.7%	Web	—	ISAAC	24850人	87.2%	
北海道上士幌町における成人喘息、アレル ギー性鼻炎有病率の検討 2006年、2011年 の比較	北海道	2011年	20~81歳	男性23.2% 女性25.4%	配票	無	ECRHS	1500人	98.1%	
思春期におけるアレルギー疾患に関する実 態調査	大阪	2011年	大学新入生	35.7%		無	その他の調査 票			(3316人)
Does change of residence affect pollinosis? A study of Japanese university students	長野	2011年	大学新入生	花粉症;34.7%	集合	-	ISAAC	2142人	85.9%	72.9%
長崎県離島におけるスギ花粉症の疫学調査 平戸市大島村全島民へのアンケート調査か ら	長崎	2009年	全年齢	スギ花粉症 2.7%	配票	—	その他の調査 票	1438人	73.5%	(1017人)
スギ花粉症が生徒の学校生活に与える影響	東京	2008年	12~15歳 (中学生) 15~18歳 (高校生)	スギ花粉症 29.9%	集合	—	その他の調査 票	中学校:634人 高校生:963人	100%	
鼻アレルギーの全国疫学調査2008(1998年 との比較) 耳鼻咽喉科医およびその家族を 対象として	全国	2008年	全年齢	鼻炎 2008年23.4% 1998年18.7% スギ花粉症 2008年26.5% 1998年16.2%	郵送	—	医師の診察		37.7%	(15673人)
北海道における学生の花粉症に関するアン ケート調査	北海道	2008年	大学生 看護学生	花粉症 15.4%	集合	-	その他の調査 票	239人	98.0%	98.0%